フリーアドレス採用

谷口運送×イーソーコ総研

谷口運送（安田行男社長、東京都品川区）は、新型コロナウイルス感染拡大を契機に本社オフィスを改装し、座席を固定しないフリーアドレスを採用している。ソーシャルディスタンス（社会的距離）を確保し、安全に働ける環境を整備。他の拠点についてもリノベーションを視野に入れている。

2020年10月14日から運用を開始。テレワークや時差出勤、社用車出勤を行っていたが、「通常に戻るには時間を要する」（小林淳営業部長）と想定し、採用に踏み切った。

小林部長は「運送会社としては早くにフリーアドレスへかじを切った。採用を決めたのが7月ごろで、9月末の決算期までに間に合わせる必要があったが、その時にイーソーコ総合研究所（港区）の出村亜希子社長のことが思い浮かび、依頼した」と話す。

依頼を受けた出村氏は「倉庫やオフィスのリノベーションなどを手掛けているが、顧客はクリエイティブ系が多い。働き方改革を進めている会社が多く、フリーアドレスを採用したオフィスも手掛けた。一方、運輸・倉庫会社で、谷口運送さんの依頼のように本社の執務スペースを丸ごと改修する事例は少ない」という。

検討を進めるに当たり、入社歴の浅い若手によるプロジェクト（PJ）チームを組成。フリーアドレスについて学ぶため、7月下旬にイーソーコグループのオフィスを見学したところ、メンバーの意識が大きく変わった。

「漠然としたフリーアドレスのイメージから、視覚的かつ具体的なイメージに変わり、各メンバーがフリーアドレスで働いている自分自身を想像できていた。後ろ向きだった人もメンバーに選定していたが、見学を通して積極的に取り組んでくれるようになった」（小林氏）

一方、検討を進める中で各メンバーの思いを一つにまとめることができず、レイアウト案の作成に最も苦慮した。リノベーションを行う意義を改めて考え直し、過去の議事録の中で多く使われていた「自律（自立）」「責任」をテーマに選定、PJの方向性を定めた。

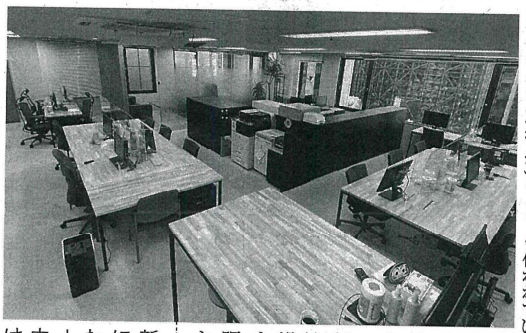
「重視したポイントは、社長からの要望だった、働く社員の安全距離を保つことと、成果を求める働きができること。今思い返せば、2点のみの指示で、決して『フリーアドレスにしよう』とは言われていなかった。フリーアドレスは社長の指示内容の着地点だったと私自身は捉えている」（小林氏）

「メンバー全員で提案していただいたことに真剣さを感じた。リノベーションでは機能性を重視しつつ、創業130年という歴史ある会社にふさわしいデザインを意識した」（出村氏）

運用を開始するに当たって、専門のPJチーム（PJ2）を発足。「前日と同じ席に座らない」「退席時は必ず消毒する」を基本ルールとしつつ、最大の課題だったルールの徹底に向け、運用開始前に啓もう活動を展開した。一方、前日と同じ席に座れないことにストレスを感じる社員がいたため、これを課題と捉えて対応を進めている。

また、新オフィスには打ち合わせ用のブースを大、中、小と設け、全てにモニター、ウェブカメラ、ウェブマイクを実装。拠点間の打ち合わせを必要な時に迅速に行えるようにし、業務上の連携の速さを向上させた。更に、会議や打ち合わせで本社に来る必要が無くなり、各拠点の社員の移動時間とコストの削減も図れている。

今後について、小林氏は「他の拠点についても、意義を見いだすことができたら、今回のようにリノベーションに踏み切る可能性はある」としている。（井内亨）



新オフィスには打ち合わせ用のブースを大、中、小と設け

若手チームでPJ推進